

ニューソフィア

New Sophia

79号

[vol.21-3]

福岡歯科大学は「口腔医学」を推進しています

Featuring News

国際交流

ブリティッシュコロンビア大学(カナダ)／慶熙大学校(韓国)
上海交通大学(中国)／中国医科大学(中国)

2

Seasonal Topics

平成24年度事業報告および決算

4

Campus News

坂上教授が「アメリカ歯周病学ボード認定歯周病専門医」に認定
シミュレーション実習用患者型ロボットを導入／公開イベントのご案内

6

People

上西秀則前教授 名誉教授に

福岡歯科大学特待生／一般入学試験A日程特待生
一般入学試験A日程による特待生継続者
AO入試学術奨励金継続支給者
福岡医療短期大学特別奨学生

7

7

Events

第6学年激励会／第16回学園体育祭
第11回サンシャインシティ運動会
同窓会オープンキャンパスを開催
平成25年度父兄後援会支部懇談会開催日程

8

From Alumni
同窓会だより

9

Hill From Clinic

春次メデイカルグループ(大阪府)
近藤歯科矯正歯科(熊本県宇土市)

10

Students & Parents

学生と保護者様からのメッセージ

11

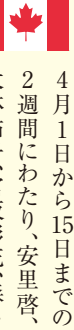
Information

平成26年度入試日程／オープンキャンパス

12

国際交流

ブリティッシュコロンビア大学歯学部



4月1日から15日までの2週間にわたり、安里啓、大林佑子、宮坂彩花、森さゆりの4名は、ブリティッシュコロンビア大学歯学部のInternational Student Exchange Programに参加させていただきました。

ブリティッシュコロンビア大学はカナダのブリティッシュコロンビア州バンクーバーとオカナガンに位置している、広大な敷地をもつ研究総合大学で、たくさんのお留学生の受け入れをおこなっています。日本の多数の大学が交換留学の提携校として存在しています。

キャンパス内にはUBC人類学博物館、アジア図書館、植物園、ビーチ、ゴルフ場やアイスホッケーのアリーナなどがあり、中でもバラ園は観光地としても有名です。このような圧倒的な規模の大きさにただただ驚かされました。

毎朝バスで大学まで通い、8時から始まる講義やデイスカッションに参加し、午後からはクリニックで見学するという生活でした。クリニック内は広く明るく清潔で、ユニットも大きく、開放的なイメージを受けました。クリニックの見学では、学生が一人で診療していることに驚かされました。時折先

生に指導を仰ぐこともありましたが、基本的には一人で診療をしており、患者さんもリラックスしてよく話している様子から、強い信頼関係を結んでいることが見て取れました。

臨床での症例をPBL (Problem Based Learning) で扱い、与えられた症例について診断、治療法の確立を学生のみでおこない、デイスカッションをしていました。このデイスカッションでは皆が自分の意見を他の学生の前で説明しており、その堂々とした態度からは普段からよく勉強していることがうかがえました。私たちは途中から参加したこともあり、積極的に発言することができず悔しい思いをしました。講義中もただ講義を聞いているだけでなく、積極的に手を挙げて質問をしていました。歯学に対する意欲的な態度に非常に刺激をうけました。彼らは勉強と楽しむことの切り替えがとてはつきりしており、日常生活の場面でもたくさん見習うところがありました。とてもフレンドリーで、よく話しかけてくれ、食事や観光に連れて行ってもらったり、同時期にオーストラリア、ペルー、イングランドから来ていた留学生たちも交えて歯学について

語り合ったり、同じ分野を学んでいる友人として楽しい時間を過ごすことができました。ここではほんの一部しか書けませんが、本当に将来に対する考え方が大きく変わってしまうほどの刺激的な経験ができました。6年生である私たちはマッチングなど自らの進む道を決める時期がこれからやってきます。そのような時期に、将来に対する視野を広げる貴重な経験をさせていただき、お世話になったすべての様に感謝しております。本当にありがとうございました。



現地学生と一緒に

森さゆり

慶熙大学校歯科大学



今村知恵、重松萌、右田理心、波多江友香の6年生4人は、4月28日から5月4日までの1週間、丸田道人講師引率のもと韓国ソウルにある慶熙大学校歯科大学の学生国際交流に参加させて頂きました。

慶熙大学校は歯学部以外にも医学部、漢方学部、ホテル学部等がある私立総合大学です。韓国の歯学部は、4年制大学を卒業した後に入学する4年間のコースと、高校卒業後入学する6年間のコースがあります。慶熙大学校は、4年間のコースを採用しており各学年80人からなります。韓国で歯学部に入るためには全国のトップ1%に入る必要があります。医学部を超える人気の学部でもあります。

私たちは毎日、9時30分から病院見学を行い、午後は特別講義を受けて過ごしました。慶熙大学校には学生専用の診療ユニットがあり、そこでは学生が一人で患者さんを診療していました。指導医にアドバイスを受けながら治療をすすめている姿はとても頼もしく見えました。放射線科では、読影室で直接患者さんに問診しながら読影レポートを書いたり、様々な診療スタイルがあることも知りました。またGangdongにあるサテライトの病院で口腔外科のおべも見学させていただきました。

なかでも一番興味を持ったのは、矯正での治療方法です。慶熙大学校では、多種類のインプラントアンカーを使用しており、福岡歯科大

学ではあまり見たことのない術式をいくつか紹介してくださいました。慶熙大学校の先生が言われていたのは、海外では新しい治療に対して挑戦的な傾向が強いということでした。その為、トラブルが起きることもあるそうです。患者さんにとつての利益を考えながら、多くの治療の選択肢を提供できるように歯科医師になるためには、日本での症例に対する勉強はもちろん、海外での勉強もしていかなければならないと思いました。

慶熙大学校の先生も学生さんともとても親切で、観光や食事と一緒に過ごさせていただきました。今回、いろいろな経験をさせて頂きましたが、様々な方との出会いが、私たちにとつての一番の宝物となりました。慶熙大学校の学長先生に言われた「次は歯科医師という同じフィールドに立つて、また会いましょう」という言葉が忘れられません。

6年生というこの大切な年に、海外での歯科医療を見学する機会を得たことで、さらに自分の将来の可能性を広げることができました。本当にありがとうございました。

波多江友香



江東慶熙大学病院にて 病院長、歯科部門教授陣と共に

上海交通大学口腔医学院



4月21日から28日までの1週間、私たち安東祐希、尾崎茜、坂本佳央理、高橋侑子、高橋佳子、竹下沙織、財部由唯と、引率の谷口奈央先生を含めた8名で、上海交通大学口腔医学院を訪問しました。

私たちが研修した第九人民医院は、宿泊先のホテルから歩いてすぐのところであり、そこで私たちは三班に分かれて、それぞれ上海の学生さんに病院を案内してもらいながら研修をしました。そこでまず初めに思ったことは、とても患者が多いということ。各階のフロアには、日本よりも細かく分けられた科がいくつもあり、そしてどの科も中国全土からの患者さんで溢れ返っていました。またその患者に対しての先生の対応がとても速く、日本で見たことのない光景だったのでとても驚きました。先生に話を伺ってみると、一日一人で70人もの患者を診ているそうで、日本との違いを目の当たりにしました。他にも、学生が一人の患者を最初から担当して治療しており、分らない時は先生に聞いてアドバイスを貰いながら治療している姿を見て驚きました。また、病院研修の間、案内をしながら私たちの世話をしてくれた上海の学生さんとても優しい方たちで、私たちの疑問点をわかりやすく説明してくれ、困ったことがあるとすぐに助けてくれたので、一日目からすぐに打ち解けることができました。最初は知らない土地に来て緊張していたのですが、特に不自由な思い

もすることなく上海で楽しく過ごすことができました。

研修以外には観光の機会もあり、上海タワー、等高層ビルが立ち並んで上海の街がすごく発展しているところや、古い名園などのレトロな街並みが残っているところを訪れ、新旧の姿が上海の歴史を垣間見ることが出来ました。また、中華料理もとても美味しく、歓迎会や送別会では、紹興酒を皆で飲みながら、楽しく過ごすことが出来ました。9月には上海交通大学の学生さんと先生方が福岡歯科大学を訪問してくださるということなので、その時の再会をかたく約束しました。



歓迎式典での集合写真

今回の研修を通して、私たちは日本では得られない貴重な経験をすることができました。このような素晴らしい機会を与えてくださったことに感謝し、今回上海で学んだことを将来自分たちで生かしていけるように頑張りたいと思います。

財部 由唯

中国医科大学口腔医学院



私たち井出崇博、河野知世、功能敦子、松尾康平、柴田華衣の6年生5名は、4月21日から一週間、中国医科大学口腔医学院への海外研修に参加させていただきました。

中国医科大学は、中国東北部の内陸の瀋陽に位置する長い歴史をもつ大学です。瀋陽の街中には、現在でも戦前日本人によって建てられた建物が多く残っていますが、中国医科大学もその当時の建物をそのまま利用しており、日本とは深い関係がある大学です。また大学には中国語クラス、英語クラスのほかに日本語のクラスが設置されていることに加え、日本へ留学された経験から日本語が堪能な先生も数多くおられたため、日本とのつながりにより強く感じられました。

一週間の研修のうち、4日間中国医科大学の付属病院で診療を見学させていただきました。歯周病科、保存科、補綴科、矯正科、小児歯科、口腔外科の6つの科を回りましたが、日本と同じ点もあれば異なる点も多くあり、すべてが新鮮でした。口腔外科を見学した際には口唇口蓋裂の患者さんに会わせていただき、手術後の言葉のトレーニングも見学することができました。まだ小さい患者さんに対してどのような点に注意しつつ、成長に従って治療を行っていくのか、実際の診療の様子を見ることができ、貴重な経験でした。この他にも、これま

で写真などでしか見たことがなかったような症例を実際に見ることができ、授業で学んだことと実際の診療とを結びつけ理解することができました。

また、今回の研修中、福岡歯科大学への研修を希望している学生さん7人と交流することができました。毎日大量の宿題をこなさなければならぬと教えてくれましたが、そんな忙しい中でも私たちのために多くの時間を割き、親切にしてくれたことに感謝しています。それと同時に、しっかりとした目標と熱意を持ち努力しているということがとても強く感じられ、その姿勢に強く刺激を受けました。今回の研修で中国の歯科医療の実際の現場を自分の目で見ることにできたことに加え、違う国であっても同じ目標を持つ貴重な友人も得ることができ、とても嬉しく思います。

一週間という短い期間でしたが、毎日



送別会にて お世話になった先生方・学生と

とても充実しており、本当に楽しく実りの多い一週間でした。院長の路先生を始め、医局の先生方、学生さんたちも温かく私たちを迎え入れてくださり、感謝の気持ちでいっぱいです。そして研修期間中、私たち学生を常に温かく見守ってくださった引率の稲井哲一朗教授、諸富孝彦講師、また、このような素晴らしい機会を与えてくださった先生方から感謝致します。

柴田 華衣

平成24年度事業報告および決算

事業報告の概要

1 口腔医学の学問体系の確立・育成について

口腔医学教育・口腔医療の確立・育成のフロントランナーとして、10年余の実践に努めました。健康長寿社会を支えるため大学改革に取り組む本学の意図を社会に広めるとともに、学生・教職員と歯科医師の意識改革や社会・国民の歯学・歯科に対するイメージの改善を期して、平成25年4月から福岡歯科大学の学部学科の名称を「口腔歯学部」「口腔歯科学科」に変更することを決定し、文部科学省に届け出て承認を受けました。また、文部科学省選定の平成20年度戦略的連携支援事業「口腔医学の学問体系の確立と医学・歯学教育体制の再考」に関しては、連携大学間でのTV配信授業「歯学連携演習」等の「口腔医学教育の充実に向けた新たな口腔医学教育カリキュラムの実施・基礎医学（解剖学）のモデルカリキュラム作成等を行いました。

2 教育の改善・充実等について

(1) 文部科学省選定の大学教育改革(GP)「優れた取り組みの助成事業」として、大学では「臨地体験と就業情報通信システム構築による歯学生の就業支援強化」(助成期間、平成21～23年度)を継続実施しました。短大では「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」を新たに開始しました。また、平成21、22年度に実施した「大学教育・学生支援推進事業」就職支援推進プログラムが取組優秀校に選定されました。

(2) 組においては、臨床実習充実のための「患者型ロボットを用いた救急時対応口腔医学実技教育システム」の構築、「教育現状の改善策として」「新たな進級制度及び試験制度の策定」主体的な学びを支援する「e-learningシステムの充実」等を実施しました。

(3) 大学院においては、大学院充実PTにおいて医科と連携した歯科治療の実践について検討し、口腔医学に沿って総合医学基本テーマを充実させました。

3 研究の活性化について

(1) 文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に選定された3つの事業を中心として、先端的研究を推進しました。

(2) 先端科学研究センターでの研究「疾患の抑制におけるゲノム安定性と環境ストレスの制御」は、5年計画の最終年度に当たり、研究経費を重点配分し研究推進に努めました。なお、これまでの研究成果を報告書として取り纏めて文部科学省に提出、高い評価を受けました。

(3) 再生医学研究センターの「生体内環境を調和する硬組織再建システム」に関する研究については、5月に研究成果報告会、平成25年1月にシンポジウムを開催しました。

(4) 老化制御研究センターを新設し、5年計画の研究「老化の抑制と疾患の制御における環境ストレスとゲノムの応答」を開始しました。

(5) 国際交流協定校(フリテイツシュコロンビア大学、慶熙大、ヤンゴン歯科大学)から講師を招いて、11月に口腔医学国際シンポジウムを開催しました。

4 学生の支援等について

(1) 学生一人ひとりの指導状況を把握するための「学生ポートフォリオの作成」、修学上の問題等の早期解決に向けた「多様な学生に対応した個別指導」、また、学習環境整備改善の一環として「部室等トイレのウォッシュレット化」等を実施しました。

(2) 経費の根幹である学生募集については、大学・短大ともに効率的効果的な高校訪問や九州地区の進学相談会に積極的に参加するとともに、大学では学生の経済的負担を軽減するために、平成25年度入学生より学生納付金を6年間総額450万円減額しました。

(3) 平成25年度入学生数は、学部99名、短大歯科衛生学科98名、保健福祉学科33名となりました。

(4) 社会との連携・貢献について

(1) 医科歯科総合病院では、歯科診療ユニットを全面的に最新式に更新するとともに、小児科および整形外科の平成25年4月開設に向けて整備を完了し、地域医療センターとしての充実にも努めました。なお、外来患者数は1日平均577.8人で前年度比0.5%減、入院患者数は267人で4%減となりましたが、収入については微増しました。

(2) 新設の口腔医療センターでは、同窓生や開業歯科医師等を対象とした卒業あるいは生涯研修やセミナー等を開催し、口腔医療を実践できる人材の育成と最新の医療情報の発信に努めました。なお、年間患者総数は1万7,311人、1日平均患者数は64.4人となりました。

(3) 介護老人保健施設は、開所10周年を迎え、居宅介護支援事業所や地元公民館等の協力を得るなど利用者拡大に努めました。前年度比で入所者は2.1%減、通所者は9%減となりました。また、超高齢者社会到来に向けて、新特別養護老人ホーム建設計画を進めています。

(4) 大学間連携では、西部地区五大学連携懇話会(九州大学、福岡大学、西南学院大学、中村学園大学)等の多様な連携関係を構築し、教育・研究・地域との交流等について様々な取組を行い、研究成果等の地域社会への還元にも努めました。

(5) 国際交流では、大学はフリテイツシュコロンビア大学歯学部、上海交通

学校法人福岡学園の事業報告および決算、5月21日開催の評議員会、理事会で承認されました。その概要は次のとおりです。

6 組織運営について

(1) 事務局活性化に向けて、平成25年度から管理職任期制の導入を決定しました。

(2) 外部資金導入として、文部科学省から私立大学戦略的研究基盤形成支援事業、研究設備整備費補助金、私立大学教育研究活性化設備整備事業および大学改革推進等補助金など約1億円を受け入れました。また、科学研究費補助金として約1億円を、寄附金の受け入れに努めました。

(3) 医科歯科総合病院の老朽化対策のため、病院将来構想検討委員会を設置し新病院の開設に関する検討が行われています。

激しく変化する社会において、その明い未来を切り開いていくことが大学の役割です。創立40周年を迎えた今、これまでの伝統と実績を踏まえ、口腔医学・歯科医療の充実・進展への寄与、介護・福祉増進等への貢献を目指して、全役員・教職員が一丸となって大学改革に努めて参ります。

収入の部

(1) 学生生徒等納付金収入は、在籍学生数を基に補正したことにより概ね予算額と同額の30億2,222万円となりましたが、平成24年度入学生より初年度納付金の教育充実資金を6年間分割納付したことなどにより、前年度比3億2,784万円の減収となりました。

(2) 補助金収入は、経常費補助金及び研究設備整備費補助金等の増により前年度比2,468万円の増収となりましたが、予算額を33,022万円下回る3億8,580万円となりました。

(3) 事業収入は、口腔医療センター医療収入の増により前年度比8,921万円の増収となりましたが、予算額を1億7,477万円下回る19億9,905万円となりました。このうち、病院医療収入は14億2,067万円、口腔医療センター医療収入は1億1,158万円、老健施設介護収入は4億3,194万円となりました。

(1) 人員費支出は、退職給付引当金等前年度比2,146万円の減の2億4,812万円となりました。基本金の部合計は、第1号基本金の組入れ3億3,281万円、第3号基本金(教育研究基金)引当資産への組入れ18億9万7千円、第25億5,955万円増の54億7,560万円となりました。消費費支差額の部合計は、前年度比15億5,062万円の減の15億5,566万円となりました。

4. 財産目録

資産の部は、土地・建物等の基本財産43,042万2,400円と減価償却引当特定資産等の運用財産153億3,699万円の合計で583億7,939万円となりました。負債の部合計は26億4,812万円、資産の部合計額、負債の部合計額とも貸借対照表の合計額と一致しています。

資産の部合計から負債の部合計を差し引いた差引正味財産は、前年度比10億8,933万円増の55億7,312万円となりました。

支出の部

一方、支出の部では、人員費支出34億5,302万円、教育研究経費支出13億9,991万円、施設関係支出2億9,112万円、設備関係支出2億9,388万円など支出合計は163億8,607万円となり、収入の部合計からこれを差し引いた2年度繰越支払資金は6億5,231万円となりました。

主な内容は次のとおりです。

(1) 学生生徒等納付金収入は、在籍学生数を基に補正したことにより概ね予算額と同額の30億2,222万円となりましたが、平成24年度入学生より初年度納付金の教育充実資金を6年間分割納付したことなどにより、前年度比3億2,784万円の減収となりました。

(2) 補助金収入は、経常費補助金及び研究設備整備費補助金等の増により前年度比2,468万円の増収となりましたが、予算額を33,022万円下回る3億8,580万円となりました。

(3) 事業収入は、口腔医療センター医療収入の増により前年度比8,921万円の増収となりましたが、予算額を1億7,477万円下回る19億9,905万円となりました。このうち、病院医療収入は14億2,067万円、口腔医療センター医療収入は1億1,158万円、老健施設介護収入は4億3,194万円となりました。

(1) 人員費支出は、退職給付引当金等前年度比2,146万円の減の2億4,812万円となりました。基本金の部合計は、第1号基本金の組入れ3億3,281万円、第3号基本金(教育研究基金)引当資産への組入れ18億9万7千円、第25億5,955万円増の54億7,560万円となりました。消費費支差額の部合計は、前年度比15億5,062万円の減の15億5,566万円となりました。

4. 財産目録

資産の部は、土地・建物等の基本財産43,042万2,400円と減価償却引当特定資産等の運用財産153億3,699万円の合計で583億7,939万円となりました。負債の部合計は26億4,812万円、資産の部合計額、負債の部合計額とも貸借対照表の合計額と一致しています。

資産の部合計から負債の部合計を差し引いた差引正味財産は、前年度比10億8,933万円増の55億7,312万円となりました。

平成24年度(第41期)決算の概要

平成24年度の資金収支計算書、消費費支計算書、貸借対照表及び財産目録の概要は次のとおりです。

1. 資金収支計算書

収入の部では、学生生徒等納付金収入30億2,222万円、補助金収入3億8,580万円、事業収入19億9,905万円など収入合計は164億8,756万円となり、これに前年度繰越支払資金5億5,082万円を加えた収入の部合計は170億3,838万円となりました。

収入の部

一方、支出の部では、人員費支出34億5,302万円、教育研究経費支出13億9,991万円、施設関係支出2億9,112万円、設備関係支出2億9,388万円など支出合計は163億8,607万円となり、収入の部合計からこれを差し引いた2年度繰越支払資金は6億5,231万円となりました。

主な内容は次のとおりです。

(1) 学生生徒等納付金収入は、在籍学生数を基に補正したことにより概ね予算額と同額の30億2,222万円となりましたが、平成24年度入学生より初年度納付金の教育充実資金を6年間分割納付したことなどにより、前年度比3億2,784万円の減収となりました。

(2) 補助金収入は、経常費補助金及び研究設備整備費補助金等の増により前年度比2,468万円の増収となりましたが、予算額を33,022万円下回る3億8,580万円となりました。

(3) 事業収入は、口腔医療センター医療収入の増により前年度比8,921万円の増収となりましたが、予算額を1億7,477万円下回る19億9,905万円となりました。このうち、病院医療収入は14億2,067万円、口腔医療センター医療収入は1億1,158万円、老健施設介護収入は4億3,194万円となりました。

(1) 人員費支出は、退職給付引当金等前年度比2,146万円の減の2億4,812万円となりました。基本金の部合計は、第1号基本金の組入れ3億3,281万円、第3号基本金(教育研究基金)引当資産への組入れ18億9万7千円、第25億5,955万円増の54億7,560万円となりました。消費費支差額の部合計は、前年度比15億5,062万円の減の15億5,566万円となりました。

4. 財産目録

資産の部は、土地・建物等の基本財産43,042万2,400円と減価償却引当特定資産等の運用財産153億3,699万円の合計で583億7,939万円となりました。負債の部合計は26億4,812万円、資産の部合計額、負債の部合計額とも貸借対照表の合計額と一致しています。

資産の部合計から負債の部合計を差し引いた差引正味財産は、前年度比10億8,933万円増の55億7,312万円となりました。

支出の部

消費収入の部では、帰属収入合計

平成24年度(第41期)資金収支決算総括表 (平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(単位:円)

収入の部	予 算		決 算		差 異
	金 額	構成比%	金 額	構成比%	
	学生生徒等納付金収入	3,023,615,000	19.86	3,022,215,000	
手数料収入	20,570,000	0.14	23,777,370	0.14	△ 3,207,370
寄 附 金 収入	41,993,000	0.28	40,724,810	0.25	1,268,190
補 助 金 収入	418,821,000	2.75	385,796,361	2.34	33,024,639
国庫補助金収入	418,821,000	—	382,293,000	—	36,528,000
地方公共団体補助金収入	0	—	3,303,361	—	△ 3,303,361
その他補助金収入	0	—	200,000	—	△ 200,000
資産運用収入	766,150,000	5.03	820,373,388	4.98	△ 54,223,388
資産売却収入	1,042,500,000	6.85	1,066,045,000	6.47	△ 23,545,000
事業収入	2,173,822,000	14.28	1,999,052,357	12.12	174,769,643
雑 収 入	193,409,000	1.27	182,463,738	1.11	10,945,262
前 受 金 収入	436,840,000	2.87	511,487,800	3.10	△ 74,647,800
その他の収入	7,999,741,000	52.55	9,381,106,685	56.90	△ 1,381,365,685
資金収支調整勘定	△ 893,629,000	△ 5.88	△ 945,480,438	△ 5.74	51,851,438
(小 計)	(15,223,832,000)	(100.00)	(16,487,562,071)	(100.00)	(△ 1,263,730,071)
前年度繰越支払資金	550,818,000	—	550,817,930	—	70
収入の部合計	15,774,650,000	—	17,038,380,001	—	△ 1,263,730,001

支出の部	予 算		決 算		差 異
	金 額	構成比%	金 額	構成比%	
	人件費支出	3,581,429,000	23.25	3,453,023,017	
教育研究経費支出	1,500,639,000	9.74	1,399,907,068	8.54	100,731,932
管理経費支出	323,815,000	2.10	235,897,148	1.44	87,917,852
施設関係支出	223,900,000	1.45	251,120,000	1.53	△ 27,220,000
設備関係支出	271,895,000	1.76	293,882,424	1.79	△ 21,987,424
資産運用支出	9,322,944,000	60.52	10,912,490,000	66.60	△ 1,589,546,000
その他の支出	284,867,000	1.85	301,345,669	1.84	△ 16,478,669
[予備費]	(500,000)	—	—	—	299,500,000
資金支出調整勘定	△ 403,900,000	△ 2.61	△ 461,591,048	△ 2.81	57,691,048
(小 計)	(15,405,089,000)	(100.00)	(16,386,074,278)	(100.00)	(△ 980,985,278)
次年度繰越支払資金	369,561,000	—	652,305,723	—	△ 282,744,723
支出の部合計	15,774,650,000	—	17,038,380,001	—	△ 1,263,730,001

平成24年度(第41期)消費収支決算総括表 (平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(単位:円)

消費収入の部	予 算		決 算		差 異
	金 額	構成比%	金 額	構成比%	
	学生生徒等納付金	3,023,615,000	45.48	3,022,215,000	
手数料	20,570,000	0.31	23,777,370	0.37	△ 3,207,370
寄 附 金	51,993,000	0.78	51,472,072	0.79	520,928
補 助 金	418,821,000	6.30	385,796,361	5.95	33,024,639
国庫補助金	418,821,000	—	382,293,000	—	36,528,000
地方公共団体補助金	0	—	3,303,361	—	△ 3,303,361
その他補助金	0	—	200,000	—	△ 200,000
資産運用収入	766,150,000	11.52	820,373,388	12.65	△ 54,223,388
事業収入	2,173,822,000	32.70	1,999,052,357	30.82	174,769,643
雑 収 入	193,409,000	2.91	182,634,684	2.82	10,774,316
(帰属収入合計)	(6,648,380,000)	(100.00)	(6,485,321,232)	(100.00)	(163,058,768)
基本金繰入額合計	△ 2,850,758,000	—	△ 2,745,420,880	—	△ 105,337,120
消費収入の部合計	3,797,622,000	—	3,739,900,352	—	57,721,648

消費支出の部	予 算		決 算		差 異
	金 額	構成比%	金 額	構成比%	
	人件費	3,420,097,000	56.43	3,307,535,801	
教育研究経費	1,986,300,000	32.77	1,887,071,853	34.46	99,228,147
管理経費	354,743,000	5.85	266,221,137	4.86	88,521,863
資産処分差額	0	0.00	15,301,965	0.28	△ 15,301,965
徴収不能引当金繰入額	0	0.00	134,646	0.00	△ 134,646
徴収不能額	0	0.00	129,981	0.00	△ 129,981
[予備費]	(500,000)	—	—	—	299,500,000
(消費支出の部合計)	(6,060,640,000)	(100.00)	(5,476,395,383)	(100.00)	(584,244,617)
当年度消費支出超過額	2,263,018,000	—	1,736,495,031	—	526,522,969
前年度繰越消費収入超過額	3,106,283,000	—	3,106,283,369	—	269,669
基本金取崩額	0	—	185,874,372	—	△ 185,874,372
前年度繰越消費収入超過額	843,265,000	—	1,555,662,710	—	△ 712,397,710

貸借対照表 (平成25年3月31日)

資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固 定 資 産	(57,267,346,797)	(56,452,772,710)	(814,574,087)
有 形 固 定 資 産	(11,273,345,286)	(11,243,388,889)	(29,956,397)
土 地	2,853,955,052	2,853,955,052	0
建 物	5,120,866,032	5,099,225,672	21,640,360
構 築 物	172,541,861	184,230,285	△ 11,688,424
教育研究用機器備品	1,493,113,601	1,494,562,699	△ 1,449,098
その他の機器備品	33,364,786	33,099,522	265,264
図 書	1,596,976,036	1,574,645,227	22,330,809
車 輛	2,527,918	3,670,432	△ 1,142,514
その他の固定資産	(45,994,001,511)	(45,209,383,821)	(784,617,690)
電 話 加 入 権	1,705,991	1,705,991	0
敷 金 保 証 金	59,138,900	59,138,900	0
教育研究用ソフトウェア	4,254,600	6,272,700	△ 2,018,100
その他のソフトウェア	7,052,220	9,822,330	△ 2,770,110
有 価 証 券	1,454,250,950	2,031,455,050	△ 577,204,100
退職給与引当特定資産	1,663,500,000	1,663,500,000	0
減価償却引当特定資産	8,000,000,000	8,946,000,000	△ 946,000,000
施設設備充実引当特定資産	3,000,000,000	3,100,000,000	△ 100,000,000
第2号基本金引当資産	9,622,008,850	9,022,008,850	600,000,000
第3号基本金引当資産	21,762,090,000	19,949,480,000	1,812,610,000
第4号基本金引当資産	420,000,000	420,000,000	0
流 動 資 産	(1,112,043,124)	(939,166,565)	(172,876,559)
現 金 預 金	552,305,723	550,817,930	101,487,793
未 収 入 金	401,926,951	327,545,479	74,381,472
貯 蔵 品	3,189,985	3,690,225	△ 500,240
前 払 金	54,620,465	57,112,931	△ 2,492,466
資産の部合計	58,379,389,921	57,391,939,275	987,450,646

負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固 定 負 債	(1,557,038,120)	(1,693,087,184)	(△ 136,049,064)
退 職 給 与 引 当 金	1,517,928,732	1,663,415,948	△ 145,487,216
長 期 未 払 金	17,898,300	27,140,148	△ 9,241,848
長 期 預 り 金	2,531,088	2,531,088	0
長 期 前 受 金	18,680,000	0	18,680,000
流 動 負 債	(1,091,085,906)	(976,512,045)	(114,573,861)
未 払 金	438,479,237	261,408,627	177,070,610
前 受 金	497,107,800	549,528,700	△ 52,420,900
預 り 金	155,498,869	165,574,718	△ 10,075,849
負債の部合計	2,648,124,026	2,669,599,229	△ 21,475,203

基本金の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
第 1 号 基 本 金	22,371,504,335	22,224,567,827	146,936,508
第 2 号 基 本 金	9,622,008,850	9,022,008,850	600,000,000
第 3 号 基 本 金	21,762,090,000	19,949,480,000	1,812,610,000
第 4 号 基 本 金	420,000,000	420,000,000	0
基本金の部合計	54,175,603,185	51,616,056,677	2,559,546,508

消費収支差額の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
翌年度繰越消費収入超過額	1,555,662,710	3,106,283,369	△ 1,550,620,659
消費収支差額の部合計	1,555,662,710	3,106,283,369	△ 1,550,620,659

負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	58,379,389,921	57,391,939,275	987,450,646

1. 重要な会計方針

- 引当金の計上基準
退職給与引当金/退職金の支給に備えるため、期末要支給額1,654,772,475円を基にして、私立大学退職金財団に対する掛金の累積額と交付金の累積額との繰入れ調整額を加減した金額の100%を計上している。
徴収不能引当金/未収入金等の徴収不能に備えるため、個別に見積もった徴収不能見込額を計上している。
- 減価償却額の累計額の合計額/11,246,386,378円
- 徴収不能引当金の合計額/134,646円
- 翌会計年度以後の会計年度において基本金への繰入れを行うこととなる金額/106,400,870円
- その他財政及び経営の状況を正確に判断するために必要な事項
(1)関連当事者との取引/記載すべき関連当事者との取引はない。

財産目録総括表 (平成25年3月31日)

資産の部		金 額
I. 基本財産		43,042,401,003
固定資産		43,042,401,003
(1) 有形固定資産		11,184,000,442
(2) その他の固定資産		31,858,400,561
II. 運用財産		15,336,988,918
1. 固定資産		14,224,945,794
(1) 有形固定資産		89,344,844
(2) その他の固定資産		14,135,600,950
2. 流動資産		1,112,043,124
資産の部合計		58,379,389,921

負債の部		金 額
I. 固定負債		1,557,038,120
退職給与引当金		1,517,928,732
長期未払金		17,898,300
長期預り金		2,531,088
長期前受金		18,680,000
II. 流動負債		1,091,085,906
未払金		438,479,237
前受金		497,107,800
預り金		155,498,869
負債の部合計		2,648,124,026
差引正味財産		55,731,265,895
負債の部合計及び差引正味財産合計		58,379,389,921

※資金収支計算書：当該会計年度の諸活動に対するすべての資金の収支を明らかにするもの
 ※消費収支計算書：民間企業の損益計算書に該当するもので、財政の健全度を測定する尺度となるもの
 ※貸借対照表：当該会計年度末の資産及び負債・基本金・消費収支差額の状況を表すもの
 ※帰属収入：学生生徒等納付金、寄附金、補助金その他の学校法人の負債とならない収入
 ※消費支出：人件費、教育研究経費、管理経費などの学校法人の経常的支出
 ※人件費比率：(人件費/帰属収入)×100
 ※帰属収支差額比率：[(帰属収入-消費支出)/帰属収入]×100

認定

歯周病学分野の坂上教授が

「アメリカ歯周病学ボード認定 歯周病専門医」に認定

アメリカ歯周病学ボード認定歯周病専門医とは、歯周病の専門医委員会「アメリカ歯周病学ボード」(American Board of Periodontology)によって認定された歯周病専門医のことです。その認定にはまず、アメリカ歯科医師会(American Dental Association)認定の専門医コース(3年以上)を修了して歯周病専門医の資格を取得していなければなりません。その上で、アメリカ歯周病学ボードによる基礎科目や臨床科目の筆記試験に合格し、さらには3時間にも及ぶ口頭試験にも合格する必要があります。歯周病専門医としては最高峰かつ最難関の認定試験と評されています。日本人としては9人目の合格者となります。

*参照

アメリカ歯周病学ボード Webページ
<http://www.abperio.org/>



導入 シミュレーション実習用 患者型ロボットを導入

私立大学教育研究活性化設備整備事業に、本学が提案した「患者型ロボットを用いた救急時対応口腔医学実技教育システム」が採択され、平成25年3月に患者型ロボットを導入。この患者型ロボットを用いたシミュレーション実習により、歯科診療中の患者全身状態の把握と緊急時の対応を疑似体験し、通常の診療参加型実習では経験できない対応を身に付けることができます。また、歯科と医科に利用できるロボットを導入したことにより、医学・歯学の連携によるチーム医療のトレーニングを実践することができ、医科歯科統合臨床実習の一部となっています。



患者型ロボット

福岡歯科大学／福岡医療短期大学 公開イベントのご案内

平成25年度 福岡歯科大学 公開講座

福岡歯科大学の公開講座を下記のとおり開催いたします。皆様方のご来聴を心よりお待ちしております。

子どもの笑顔を守る

医師・歯科医師のおすすめトータルケア

受講料
無料

日時 平成25年9月29日(日) 13:30~15:50

場所 よみうりプラザ(福岡市中央区赤坂)

講演1 ワクチンで防げる病気から、子どもたちを守りましょう!

講師:岡田賢司(福岡歯科大学 総合医学講座 小児科学分野 教授)

講演2 乳幼児からできる歯磨き以外のむし歯予防!

講師:尾崎正雄(福岡歯科大学 成長発達歯学講座 成育小児歯科学分野 教授)

一般の方を対象にした公開講座で、どなたでも受講できます。定員120名。

●申込方法

受講希望日、氏名、年齢、性別、住所、電話番号を明記の上、電話、FAX、E-mailまたはハガキで下記まで下記までお申し込みください。折り返し受講票をお送りします。

●申込および問い合わせ先

福岡歯科大学 企画課 〒814-0193 福岡市早良区田村2-15-1
TEL:092-801-0411(内線508) FAX:092-801-3678
E-mail:kikaku@college.fdcnet.ac.jp
福岡歯科大学ホームページ <http://www.fdcnet.ac.jp/>

第13回 平成25年度 福岡医療短期大学 公開講座

「口から食べる」を支援する 生活の質を上げる多職種連携

受講料
無料

日時 平成25年10月6日(日) 13:00~16:30

場所 福岡医療短期大学 307講義室

100歳になる胃ろうの女性入居者が持つ「口から食べたい!」という願いを叶えるために、老健施設「和泉の澤」で多職種が連携を図り、成功した事例の取り組みについて、各職種からの実践報告を交え、セッションを行います。

基調講演

「要介護者の口腔ケア、その現状と展望」

講師:康和会理事 廣瀬 知二(歯科医師)

多職種から経口摂取への取り組み報告

「胃瘻から経口摂取へ」(仮題)

講師 村上 瑞穂(歯科衛生士・支援相談員) / 熊井 裕(介護福祉士)
日高 亮(作業療法士) / 井上美和(管理栄養士) / 他2名

●申込方法

FAXでお申し込みください。

●申込および問い合わせ先

福岡医療短期大学 公開講座委員会
TEL:092-801-0923(内線199)
FAX:092-801-4473

第9回 健康まるごと福岡学園

福岡学園では、医療・保健・介護のみではなく、より広い分野での地域貢献を果たすため、「健康まるごと福岡学園」を開催します。

日時 10月26日(土)・27日(日) 場所 福岡歯科大学

イベント

- 田の歯科祭
- 講演会
- からだの科学展
- 医科ミニ講座
- 歯科無料相談
- 介護無料相談・介護施設見学
- 短大企画 など

盛りだくさんの内容で皆様のご来場をお待ちしています。

●問い合わせ先:福岡歯科大学 企画課 〒814-0193 福岡市早良区田村2-15-1
電話:092-801-0411(内線508) FAX:092-801-3678
E-mail:kikaku@college.fdcnet.ac.jp

田中理事長 卒寿お祝い

5月31日、ホテルニューオータニ博多にて、本学園の理事長である田中健藏先生の卒寿をお祝いする会が開かれました。

本学の理事・評議員、教職員をはじめ、関係者約140名が参加し、同窓会の協賛も得て、盛大な祝宴となりました。福岡歯科大学の北村学長をはじめ本学園の理事である大石秀雄氏、福岡県歯科医師会より山本達雄副会長、宮口巖同窓会会長によるご祝辞、福岡学園理事長として歩まれた20年を振り返るインタビュー、その他多くのイベントが執り行われ、結びには参加者全員が輪になり、肩を組んで校歌斉唱を行うなど、盛会のうちを終了しました。



全員で校歌斉唱

上西秀則 前教授 名誉教授に

7月4日、上西秀則前教授(感染生物学分野)に福岡歯科大学名誉教授の称号が授与されました。上西名誉教授は平成25年3月に定年退職されるまでの41年間、福岡歯科大学の教育・研究の向上に尽力し、多くの研究業績を残されました。



福岡歯科大学特待生

福岡歯科大学の平成25年度特待生に次の12名が選ばれました。特待生は、平成24年度の学業成績(第1学年は入学時)が特に優秀で、品行方正かつ健康な学生が選ばれ、その年度の授業料の半額が免除されます。

第1学年



西見 有紀子



廣瀬 杏里

第2学年



藤本 亮太



大田 祐路

第3学年



南館 崇夫



森 志穂美

第4学年



新郷 雅史



安田 梨沙

第5学年



赤木 裕美



浅尾 美沙

第6学年



安永 まどか



今井 実喜生

福岡歯科大学 一般入学試験A日程特待生

一般入学試験A日程特待生に次の学生が選ばれました。平成25年度一般入学試験A日程における成績が特に優秀であり品行方正かつ健康な入学生に与えられ、年間授業料が約246万円免除されます。

第1学年



筑紫 可奈子

福岡歯科大学 一般入学試験A日程による特待生継続者

平成24年度一般入学試験A日程特待生であった次の2名は学業成績が特に優秀であり特待生継続基準を満たしていたため、昨年に引き続き年間授業料約296万円が免除されます。

第2学年



篠田 貴子



樋口 いづほ

福岡歯科大学 AO入試学術奨励金継続支給者

平成24年度の学業成績が特に優秀で、AO入学試験学術奨励金(年額120万円)の継続基準を満たしていたため、昨年に引き続き同奨励金が授与されます。

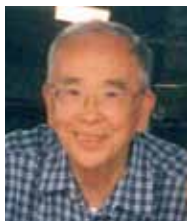
第4学年



後藤 碧

堀部隆名誉教授ご逝去

本学園の堀部隆名誉教授が6月13日逝去されました。同氏は昭和49年に本学の教授に着任(歯科理工学講座)。昭和60年3月から平成4年3月までは本学園の理事・評議員として学園および大学の発展のために尽力され、平成4年5月に福岡歯科大学名誉教授の称号を授与されました。享年86才。合掌



福岡医療短期大学 特別奨学生

福岡医療短期大学の平成25年度特別奨学生に次の7名が選ばれました。特別奨学生は、その年度の授業料の半額が免除されます。

歯科衛生学科第2学年



増岡 睦恵



坂井 亜紀子



有働 笙葉

歯科衛生学科第3学年



石橋 玲奈



石井 美紀



亀井 寛子

保健福祉学科第2学年



藤木 翔子

オープン
キャンパス

同窓会オープンキャンパスを 開催

5月26日、福岡歯科大学の同窓生の子弟を対象としたオープンキャンパスを開催しました。受験生をはじめ、歯学に興味を持つ高校1,2年生も多数参加し、盛況のうちに終了しました。参加者からは、在学生との対談や実習を通じて授業の雰囲気を経験する事で、歯科大学がより身近なものに感じられたと喜びの声を頂きました。



ご案内 平成25年度 父兄後援会支部懇談会開催日程

平成25年度の父兄後援会支部懇談会が下記日程のとおり開催されます。各支部の総会のほか、大学からの近況報告や父兄との個別面談、意見交換などが行われます。是非ご参加ください。詳細については各支部へお問い合わせください。

実施日	開催支部	会場名
8月3日(土)	福岡県中央	福岡ガーデンパレス(福岡市)
	近畿	ラマダホテル大阪(大阪市)
8月4日(日)	福岡市	福岡ガーデンパレス(福岡市)
	大分県	レンブラントホテル大分(大分市)
	宮崎県	宮崎観光ホテル(宮崎市)
	山口県	山口グランドホテル(山口市)
	広島県	リーガロイヤルホテル広島(広島市)
	山陰	
岡山県		
8月10日(土)	関東・東日本・中部・東海	ハイアットリージェンシー東京(東京都新宿区)
8月17日(土)	沖縄県	沖縄ナナホテル(那覇市)
8月18日(日)	北九州	リーガロイヤルホテル小倉(北九州市)
	長崎県	ホテルニュー長崎(長崎市)
	鹿児島県	鹿児島東急イン(鹿児島市)
8月24日(土)	熊本県	熊本全日空ホテルニュースカイ(熊本市)
	四国	松山全日空ホテル(松山市)
8月25日(日)	福岡県東部	のがみプレジデントホテル(飯塚市)
	福岡県南部	ハynesホテル久留米(久留米市)
8月31日(土)	佐賀県	マリトピア(佐賀市)

激励会 第6学年激励会

4月25日、学生食堂において、口腔歯学部第6学年の激励会が執り行われました。田中理事長による激励の言葉に続いて、北村大学長、下田父兄後援会長、武井同窓会副会長より応援メッセージを頂きました。また、今春に歯科医師国家試験に合格した先輩3名より、合格に向けて実践的なアドバイスがありました。学生を代表して熊谷徹弥さんがお礼の言葉を述べ、6年生は国家試験に向けて決意を新たにしました。



体育祭 第16回学園体育祭

第16回福岡学園体育祭が、5月24日に開催され、福岡歯科大学及び福岡医療短期大学の学生が参加しました。ここ数年は雨天のため体育館での開催でしたが、今年は雲ひとつない快晴の下、サッカー・玉入れ・バレーボール・バスケットボール等の各競技が行われ、熱戦を繰り広げる選手たちに盛んな声援が送られていました。



運動会 第11回サンシャインシティ運動会

6月23日、介護老人保健施設サンシャインシティ1階デイクア・リハビリフロアにて第11回運動会が開催されました。この運動会は入所者の日ごろのリハビリの成果を生かし、競技を通じて入所者とその家族、職員がともに楽しく汗を流し交流を深めること、また、施設看護・介護について理解を深めていただくことを目的として毎年行っています。今年は借り物競走や綱引き、玉入れなどの競技が行われ、楽しいひと時を過ごしました。



コラム「定心」

共感する心

人の行為やその結果が自分と共有できるとき、私達は共感できるといふ。その行為を経験している事、その行為の価値を知っている事がないと、共感には起こりにくい。しかし、人の行為の結果は自分の事でないため

に、その時の状況として喜ぶ振りをしているにすぎない事もある。人の哀しみを自分の哀しみとしながらも、自分の幸運に安堵する事もある。こうした私達の態度は真の共感ではなく、共感的態度と呼んでいい良いものであり、偽の共感と言っても良いかも知れない。真の共感とは善で、偽の共感とは偽善であるということに容易いが、共感には常

に、自分自身の心の安らぎへの志向が含まれており、完全に利他的行為ではない。また、偽の共感とはいつかその人に同じような状況が訪れたとき、真の共感に転化するし、逆も起こり得る。善であろうと、偽善であろうと、その行為が相手の心を思いやって行われたのかという事が重要である。教養を身につける意味は、ここにある。



ご講演された永井先生

「機能咬合療法から歯科医療を再考する」
「演繹的思考に立った診断と時間軸で診る処置(長期症例から)」

橘 一史(27期)

ランタン(中国提灯)が長崎の街を演出するランタンフェスティバルが開催された平成25年2月16日(土)長崎県歯科医師会館にて福岡歯科大学長崎県同窓会(歯つてん会)学術講演会が開催されました。宮崎県都市でこの開業の医療法人永仁会 永井歯科 理事長、霧島会 主宰 永井 省二先生(5期卒)に講師としてご来崎いただきました。

講演の中で永井先生は演繹法の基本的な考え方として「相手の立場に身を置いて考える。」そうすることにより医療人の目指すところである患者さんに安心と安らぎを与えることにつながると述べられていました。まず患者さんに信頼される歯科医師の3条件として1)人間性・人となり・性格(人間力) 2) 確実な診断と治療方針(Stomatology) 3) 技術やセンス(Dentistry)を挙げられ、これらを持つことで患者さんに安心を与えることができると話されていました。そしてその3つの条件を達成するための優先順位は、技術力Ⅳ 人間力Ⅲ

診断力で歯科の仕事は人間力や診断力があつたとしても技術力がなければ力を発揮できない。出来ることで余裕が生まれ、人間力がついてくるとも述べられました。その後、「演繹的」という言葉を使い「演繹的な発想の診断とは短絡的に原因と結果を結びつけるのではなく、そこで起こっている事実を今まで得られた経験と照らし合わせて、統合的に説明できるモデルを形成し理論展開していく発想」と説かれていました。そして最後に私たちに對して常に「患者さんのことで思い悩むことが私たちの仕事で、それを楽しめるのが本当のプロだと思えます。」という言葉で講演を終了されました。

講演会後には懇親会が開かれ5期の先生方もたくさん出席され、ミ二同窓会となりました。翌日も講演会というハードスケジュールにもかかわらず、夜遅くまでお付き合いました。店の外での龍踊りの演出もあり楽しいひと時を過ごしました。

永井先生におかれましては遠方よりご来崎しご講演していただき誠にありがとうございました。心から感謝申し上げます。



懇親会の様子

卒業生 NOW

キッズニアをご存知ですか?

荒巻 健一(16期)



みなさん、こんにちは。16期卒業の荒巻健一と申します。歯科医師になってもうすぐ20年になろうとしています。ただいま子育てに奮闘中です。

小学校6年生の長女、小学校1年の次女、三女は、やっと幼稚園に今年入園いたしました。日々学校の送り迎えや習い事、塾の送迎で1週間があつという間に過ぎていきます。ほとんど家内にまかせきりで父親としてはなかなか時間を取れずにいます。

子どもたちには将来自分がなりたい夢を実現していけるようにサポートしていきたいと仕事にがんばる毎日です。そいういながら3人いる子どもたちの中で1人くらいは自分と同じ歯科医師を目指してほしいと思うのは親心です。

歯科医師という仕事をもっと身近に伝える機会をさがしていたところ、職業体験テーマパークのキッズニアを見つけました。キッズニアは東京と兵庫県の甲子園球場の横の2ヶ所にあります。

4年前にキッズニア甲子園がオープンした年から毎年出かけています。キッズニアはひとつの街になっていてその中に歯科医院の職業体験のブースがあります。ライオンがスポンサーさんでユニットはモリタです。すべて使用する機材は本物です。

始めに1人ずつ口腔内カメラを用いて自分の口の中をモニターから観察します。そのあとにPMTICを模型で体験。最後に、歯科医師と歯科衛生士の役割に別れて、シリコン印象をおこないます。子どもたちは楽しく歯科のお仕事を体験しました。

そこで学んだことを自分の医院でも実践して、来院する子どもたちにもキッズイベントでミニキッズニアを開催しました。子どもたちがよろこんで歯科医師を目指すことができるように、私も毎日の診療を楽しみながら仕事したいものです。



同窓生からの手紙

福岡歯科大学同窓会における各種情報発信のご紹介

広報、企画・情報常務理事 小柳 進祐(12期)

皆様には、平素より福岡歯科大学同窓会の活動にご協力賜り誠にありがとうございます。

現在私は、広報委員会および企画・情報委員会を担当させて頂いております。そこで今回この2つの委員会の同窓会における役割についてご紹介させて頂きたいと存じます。

まず、広報委員会は、同窓会誌「背振」ならびに同窓会通信「季節風」の企画、編集、発行、同窓生名簿の情報収集および発行、さらに、学園広報誌「ニューソフィア」への執筆協力を役割としております。これら広報物の執筆には同窓生の皆様に多大なる協力を賜っており、心より感謝申し上げます。

上げる次第でございます。

次に、企画・情報委員会は、新しい同窓会活動の企画、同窓会ホームページの運営、メールマガジンの発行、ソーシャルネットワークシステムの活用、事務局機器の整備、各種情報の収集を役割としております。

この2つの委員会は、役割は若干異なるものの、皆様に対して同窓会の情報を発信する窓口の役割を果たしております。特に企画・情報委員会では会員の先生方だけではなく、会員率の向上を目的に、同窓生の方全員に少しでも同窓会の状況をお伝えし、興味を持って頂くよう情報を発信しております。昨今のネットワーク環境の充実によるものか、ダイレクトに皆様のお手元に情報が届く利便性からなのか、メールマガジン、ソーシャルネットワークシステムは登録して頂いている方が急上昇しており、情報発信の一翼を担うようになって参りました。

皆様におかれましても、広報部刊行の印刷物だけではなく、ホームページ、メールマガジン、ソーシャルネットワークシステムをご利用賜り、同窓会の情報に触れて頂くことができましたら幸甚です。

「福岡歯科大学同窓会ホームページ広報」<http://www.fdcnet.ac.jp/col/collink/alumnus/kouhou.html>

「Facebook福岡歯科大学同窓会グループ」<http://www.facebook.com/?sk=lf#!/groups/237573709603269>

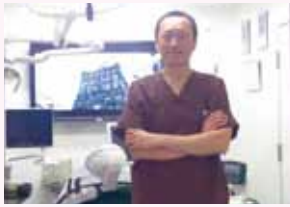
「ケセラセラ人生

春次 賢太郎 (2期生 / 春次メディアグループ(大阪府))

笑う門には福来る
心の貧乏人にならない

皆 様、こんにちは。2期生の春次賢太郎と申します。卒業後は歯学博士の学位を頂き、現在は医科を含め10数か所の診療所を経営しています。

私は笑う事が大変好きで小さなことにこだわらない性格であり、「ケセラセラ人生」なる様になるさといういわゆる樂觀的な人生を送っています。友人と遊ぶのが好きで、特に食とお風呂には多大なるこだわりを持っており、それが高じて自宅にも露天風呂、ジャグジー等、合わせて「6つのお風呂」があります。又、自宅でたくさん友人と食事会を頻繁に行います。こだわりのものばかりを選び、皆さんには「美味しいーまた行きたい」と、とても人気です。食べてよく笑う、くよくよせずストレスを溜めない、また友人と多く接することで相互に起きる脳の活性化や免疫増加につながります。お風呂はストレッチ解消のみならず筋肉のリラックス、これに適度な運動・刺激が加わるだけでも十分な効力を持ちます。そしてそれによる癒し効果があることで、結果、長生きにつながるのです。



オペ室にて。ツイン春次クリニック歯科 今上英樹院長



春次先生は前列右側

私は55歳でセミリタイアを考えておりましたが、7歳で初めて子供が出来ましたので、60歳まで期限を延長致しました。歯科医師会本会役職も27歳の最年少

と新聞で取り上げて頂き、自分で期限を決めた37歳までの10年間経験させて頂きました。天皇陛下にも拝謁、園遊会にもご招待頂き、また総理大臣の後援会会長や日本歯科先端医療技術研究所会長、また相撲の後援会長も務めました。先端歯科治療に携わっていることもあり、財界・政界・芸能の通常ではお会い出来ないような方までお目にかかることが出来ました。このような経験と幸福には心から感謝しております。

最後に私の生き方は、心の貧乏人にならない。直線でご本音の付き合いをし、社交辞令的に人とお付き合いをしないことです。知人ではなく友人が多くできることは、誠に嬉しい限りです。たくさん量の量を求めるのではなく、確かな質を手にする人生。日々是感謝です。

「地域に貢献。」

近藤 俊輔 (27期生 / 近藤歯科矯正歯科(熊本県宇土市))

日々成長

皆 さん、こんにちは。27期卒業の近藤俊輔と申します。

卒後、岡山市の矯正歯科の開業医にて3年間、その後本学、成長発達歯科学講座矯正歯科学分野に3年間お世話になりました。石川博之教授に御指導をいただき、歯科診療のみならず、医療人としての姿勢を教えてくださいました。

帰熊後は、学生時代にも講義でお世話になりました。宇治寿隆先生のもとで2年間お世話になりました。先生からは患者さんへの接し方を学ばせていただきました。また今後熊本で歯科医師としてやっていくなかで、生涯にわたって関係を持っていきたい、同門の先生や歯科医師会の剣道部の先生方と出会うことができました。

私ごとですが昨年は人生のなかで大きな節目を向かえました。一つは熊本矯正歯科研究会にて出合った妻(鹿児島大学歯学部)と結婚、したことです。いま一つは、皆様のおかげをもちまして昨年6月に開業させていた



いただきました。矯正歯科から生活の糧は正歯科から。嫁さんまでお世話になり大変感謝しております。



さて、いざ開業しますと勤務医とは違い(より多く(笑))自分の至らなさや、知識の大切さを日々実感しております。開業までは、なるべく丁寧に患者さんに説明し治療を行っていくことが中心でしたが、院長になると経営のこと、スタッフの人事教育から、タイムカードの機種をどれにするか、看板などの広告をどこに出すのか、その費用対効果はどうなのか。歯科の知識以外の経験したことのない決断を下す場面に頻りに遭遇します。そこで、出会った先輩方に相談したり、あるいは自分で試行錯誤することで日々成長を感じて毎日を送っております。

まだまだ、至らない点が多いですが、すこしでも地域に貢献できるようにがんばってまいります。

FROM STUDENTS

学生からのメッセージ

三度の飯より好きでした



菅 毅典 (大学5年)

私は小さな頃から絵を描くことが好きでした。小学校の頃には将来の夢は絵を描いて生きていくことでしたし、それは中学高校に進学しても変わりませんでした。中学校では美術部に入り絵を描き、高校ではパソコン部に入り今度はパソコンで絵を描き続けました。そんなことから成績もひどいことになりました。勉強合宿の時なんかには勉強をせずに絵ばかり描いていたので当然のことといえば当然の結果です。大学受験で浪人したのですが一年目は絵を描き続けていました。さすがに二年目はそうも言ってもらえなくなり必死に勉強をしました。

その結果、この大学に入学できたのですが、その頃には絵を描きながら生活していくなんてのは諦めざるを得ないと思っていました。それに、今まで勉強をさぼった分を大学で取り返そうとする中で忙殺されていき、絵を描くことは少なくなっていました。

歯科医師という夢を目指し絵の夢はすっかり忘れかけた頃、福岡市歯科医師会主催のポスターコンクール「歯っぴーコンテスト」に投稿するよう友人に勧められました。無理だと思いつつ勉強の合間をぬい苦勞してなんとか作品を仕上げることができました。後日、自分の作品が幸運にも金賞を受賞できたということを知り、一度は諦めた夢がまさかこのような形で実現するなんてと驚くとともに、趣味として続けた絵でもこのように歯科に生かすことができ、何処で何が役に立つかわからないものだとしみじみと実感しました。

今回は友人の勧めでしたが、次のチャンスは自分で積極的に探していこうと思います。そして、歯科医師になってもそのチャンスを追いつけられたらいいなあ、と思っています。



有言実行の大学生生活



浅尾 美沙 (大学5年)

私は大学に入学する前、大学生活というものに様々なイメージを持っていました。大学生になれば一人暮らしをして、車の免許を取り、バイトを始め、新しくできた友人たちと遠くまで遊びに行くなど、楽しむことばかり考えていて、勉強に対する意識は低いまま大学に入学しました。

しかし実際に入学し大学生活を始めてみると、勉強する科目や量の多さに驚かされました。特に基礎科目である「細胞生物学」や「生理学」など人間の体にかかわる学問は、高校時代に生物を選択していなかった私にとっては未知の領域で最初は勉強についていけず一杯でした。最初の方こそ勉強に不安を感じていたのですが、じきに持ち前の負けず嫌いの精神が頭をもたげ「どうせ同じ大学生活を送るのなら、自分のやりたいことも勉強も両立させてやろう」と思えるようになりました。一年生ではバイトを始め、二年生では車の免許も取得しました。もちろん勉強の方も忘れてはいません。

学年が上がり臨床科目を学ぶ機会が増えるにつれて、日々進歩していく歯科治療を理解していくには基礎の確実な定着も必要であると考えた私は、今年度から新しく始まったSA(スチューデント・アシスタント)に立候補しました。SAという制度は立候補した学生が、受講を希望した学生の勉強の質問や時には勉強に対する悩みなどを一緒に解決していくというものです。後輩の勉強を助けながら、自分自身のための勉強にもなればと考えたわけでした。

残りの大学生活も2年を切ってしまいました。このSA制度に限らず、勉強も勉強以外にも楽しみながら大学生活を送っていこうと思っています。



TO PARENTS

保護者様からのメッセージ

福岡歯科大学生の誇りを

私が本校を卒業したのが31年前です。その後、娘が母校に縁あって入学することになり、久しぶりに次郎丸の駅に降り立ったときは、新しく道路も整備されどの方角に大学があるのか戸惑った事が思い出されます。当時は1号館(現短大校舎)、2号館(病院棟)、3号館(本館)と呼ばれ1号館で基礎科目や解剖実習を行いました。大学の住所も西区大字田とまさにその名のとおり田んぼの中の歯科大学で、カエルの鳴き声を聞きながら勉学に励むには最高の環境(?)でした。

さて、巷では歯科医師の過剰供給問題が取りざたされていますが、高齢化社会に突入している現在、歯科医療の重要性がさらに見直されています。寝たきりの方の口腔内清掃不良による誤嚥性肺炎、歯周病による糖尿病の悪化、心臓血管障害、関節リウマチ、早産・低体重出産など全身に影響を及ぼします。高齢化社会において、健康で一生を過ごすために歯科はまさに「生きる力を育む歯科医療」なのです。大学も「口腔医学」を掲げ基礎医学の講義も多岐に及んでいます。

国家試験も資格試験から選抜試験へと私の頃と比較し難しくなっていますが、将来の口腔医学を担う歯科医となるべく頑張りたいと切に願います。

私のような50代以上が現役を引退する頃、歯科医師が不足すると聞いています。学生諸君は輝く未来にむけて、諸先輩が培ってきた栄光の「福岡歯科大学」の学生であることを誇りに勉学、サークル活動に全力で臨んでください。



城間 吉弘 様
(父兄後援会評議員)

幸福に学び、楽しく遊ぶ

幸福に学び、楽しく遊ぶ。幸福とは何でしょう。幸福には病気にならない元気な体と心があり、より大切なのは心の幸せ、心の満足です。夢と希望を持った充実した日々を送る。人間一人では生きていけません。周りに心が弱った人がいれば心の痛みを分かち合い、よく話し、解決できなくても未来を信じる力を持てば、心は元気を取り戻します。

学力をつけ、精神力の強さを備えた人間に成長し、体と心の幸福を大切に有意義な学生生活を過ごしてください。この6年間の勉強が歯科医師の基盤となります。知識なくして診療はできません。高齢化に伴い有病者患者も増加し治療中の偶発症への注意、また血液や唾液などが飛散し、周囲への感染のリスクもあり、すべての患者が感染性のウイルスや細菌を保有しているかもしれないという前提で診療を行わなければいけません。長い歯科医師人生、自分の体は自分で守る知識もしっかり学んでください。歯科医師は患者さんの痛みを治し、おいしく食事を食べる喜びを与えるやりがいのある仕事です。患者さんへの思いやり、スタッフとのコミュニケーション、信頼される技術と知識を、講義、実習で学び、先輩、先生方の臨床に接し、自分のスタイルを見つけてください。


学生らしく仲間や、先輩、後輩と楽しく遊び笑顔で過ごした喜びは、これからの財産です。学校関係の皆様や、ご父兄に感謝の気持ちを持って、夢と希望に向かってがんばれ 学生諸君。



中村 重雄 様
(父兄後援会 副会長)

平成26年度 入学試験日程

福岡歯科大学

口腔歯学部									
区分	AO入試I期	推薦・指定校推薦入試	一般入試A日程	センター試験利用入試I期	一般入試B日程	センター試験利用入試II期	AO入試II期	学士等編入学試験	
募集人員	約17名	約15名	約45名	約4名	約10名	約2名	若干名	若干名	
願書受付期間	H25.8.5(月)～9.6(金)	H25.10.21(月)～11.8(金)	H26.1.6(月)～1.31(金)		H26.1.20(月)～2.20(木)		H26.2.24(月)～3.13(木)	H25.10.28(月)～11.28(木)	
試験日	H25.9.8(日)	H25.11.9(土)	H26.2.2(日)		H26.2.21(金)		H26.3.14(金)	H25.12.2(月)	
合格発表日	1次 H25.9.10(火) 2次 H25.10.2(水)	H25.11.13(水)	H26.2.5(水) 午後5時		H26.2.24(月) 午後5時		H26.3.17(月)	H25.12.4(水)	
試験会場	福岡歯科大学試験場		福岡歯科大学試験場 及び東京試験場		福岡歯科大学試験場				
問合せ先	〒814-0193 福岡市早良区田村2-15-1 福岡歯科大学学務課入試係 TEL.092-801-1885(直通) FAX.092-801-0427 ●ホームページURL http://www.fdcnet.ac.jp ●E-mail gakumu@college.fdcnet.ac.jp ●携帯電話およびスマートフォン用ホームページURL http://www.fdcnet.ac.jp/col/deviceselect.html						 ◀携帯電話からのアクセスはこちらから!		

福岡医療短期大学

歯科衛生学科										専攻科・口腔保健衛生学専攻		
区分	指定校推薦入試	公募推薦入試(I)	公募推薦入試(II)	一般入試A日程(社会人含む)	一般入試B日程(社会人含む)	一般入試C日程(社会人含む)	一般入試D日程(社会人含む)	AO入試(社会人含む)	一次募集	二次募集	三次募集	
募集人員	約10名	約10名	約5名	約15名	約5名	若干名	若干名	約35名	約15名	約5名	若干名	
願書受付期間	H25.10.1(火)～10(木)	H25.11.1(金)～7(木)	H25.12.9(月)～12(木)	H26.1.6(月)～29(水)	H26.2.3(月)～12(水)	H26.2.17(月)～3.5(水)	H26.3.10(月)～24(月)	詳細は入試係までお問い合わせください。	H25.12.9(月)～12(木)	H26.1.6(月)～29(水)	H26.3.10(月)～24(月)	
試験日	H25.10.12(土)	H25.11.9(土)	H25.12.14(土)	H26.2.1(土)	H26.2.14(金)	H26.3.7(金)	H26.3.26(水)		H25.12.14(土)	H26.2.1(土)	H26.3.26(水)	
合格発表日	H25.10.17(木)	H25.11.14(木)	H25.12.19(木)	H26.2.6(木)	H26.2.20(木)	H26.3.12(水)	H26.3.27(木)		H25.12.19(木)	H26.2.6(木)	H26.3.27(木)	
試験会場	福岡医療短期大学						福岡医療短期大学					

保健福祉学科									
区分	指定校推薦入試	公募推薦入試(I)	公募推薦入試(II)	一般入試A日程(社会人含む)	一般入試B日程(社会人含む)	一般入試C日程(社会人含む)	一般入試D日程(社会人含む)	AO入試(社会人含む)	
募集人員	約10名	約5名	約5名	約5名	若干名	若干名	若干名	若干名	約15名
願書受付期間	H25.10.1(火)～10(木)	H25.11.1(金)～7(木)	H25.12.9(月)～12(木)	H26.1.6(月)～29(水)	H26.2.3(月)～12(水)	H26.2.17(月)～3.5(水)	H26.3.10(月)～24(月)	詳細は入試係までお問い合わせください。	H26.3.10(月)～24(月)
試験日	H25.10.12(土)	H25.11.9(土)	H25.12.14(土)	H26.2.1(土)	H26.2.14(金)	H26.3.7(金)	H26.3.26(水)		H26.3.26(水)
合格発表日	H25.10.17(木)	H25.11.14(木)	H25.12.19(木)	H26.2.6(木)	H26.2.20(木)	H26.3.12(水)	H26.3.27(木)		H26.3.27(木)
試験会場	福岡医療短期大学								

問合せ先	〒814-0193 福岡市早良区田村2-15-1 福岡医療短期大学入試係 TEL.092-801-0439(直通) FAX.092-801-4473 ●ホームページURL http://www.fdcnet.ac.jp/jcol/ ●E-mail gakumuj@college.fdcnet.ac.jp ●携帯電話用ホームページURL http://www.fdcnet.ac.jp/jcolhp						 ◀携帯電話からのアクセスはこちらから!	
------	--	--	--	--	--	--	---	--

キャンパス歳時記

ガーデン研修会

5月21日に開催された評議員会、理事会終了後、学園理事、監事、評議員との親睦を図る「ガーデン研修会」が開催されました。学生食堂及び本館南側庭園で開催された研修会には多くの教職員が参加し、準備されたバーベキューや焼きそば、豚汁などに舌鼓をうちながら、学園役員等との懇親を深めました。



編集後記

国際交流プログラムはとても人気が高く、多くの学生が希望します。紙面でお伝えしたように海外研修に選ばれた学生たちは多くの収穫を得たようです。しかしそれ以外の学生も臨地体験実習として国内さまざまなところで「異文化」を体験しました。他者を理解することは自分を知ることです。国内外で「他者」と接し自分を知った学生さんが将来、患者さんをよく理解できる歯科医師になってくれるだろうことを確信しています。(NT)

オープンキャンパス開催のお知らせ

福岡歯科大学・福岡医療短期大学
平成25年度オープンキャンパス情報

本学への入学希望者をはじめ、そのご家族や高校・予備校の先生方を対象としたオープンキャンパスを下記の日程で開催いたします。各大学の入試係までお問い合わせのうえ、お気軽にご参加ください。

詳しくは
ホームページで
公開中!

福岡歯科大学

第1回

7月27日(土) 10:00～15:00
〈内容〉模擬講義、模擬実習、施設見学、在学生との座談会など
歯学教育に興味のある小中学生から保護者まで、幅広く皆様のご参加をお待ちしております。

第2回

8月3日(土) 11:00～15:00
〈内容〉模擬実習、小論文・面接対策、施設見学、在学生との座談会など
本学の受験を考えている方は必見です。



メールでのお申込みはこちら



施設見学



模擬実習

福岡医療短期大学

実施日

7月26日(金)
8月3日(土)・9日(金)・23日(金)
9月14日(土)・28日(土)
10月12日(土)
11月23日(土)
12月14日(土)

内容

- ◎施設見学
- ◎カリキュラム説明
- ◎在学生の声紹介
- ◎入学試験説明



メールでのお申込みはこちら



歯科衛生学科・歯磨き体験



保健福祉学科・介護施設見学